

海外銅など、米利上げ問題などが左右か

銅スクラップ需給はひっ迫も



橋本健一郎氏

橋本金属
アルミ
三月前半は、中国人民銀行が全銀行への預金準備率を五〇ペーシスポイント引き下げると発表した事からの不安懸念、中国の二月の貿易統計が予測より大幅悪化、輸出二五・四%

減、輸入一三・八%減とロイターの予測(輸出一二・五%減、輸入一三・八%減)を大幅下回るなどのマイナス材料もあったが、G二〇後に景気対策として中国が五カ年計画では交通網に年三四兆円超とリーマンショック以降の五〇兆円以上の投資額が計画されていること。中国証券監督管理委員会の新主席が株価支援策の持続を表明したことを受けてLME銅相場はUP。三月十五日時点で四、九九四ドル(セツル)と月初価格より二八九ドルUPの前半締めとなった。

後半は、全人代閉幕に際し、李克強首相が中国経済は困窮しているものの、ハードランディングは絶対しないとの発言や、FRBイエレン議長、中国の景気減速および原油価格の急落による世界経済及び金融の不透明感が米景気のリスタとなり、緩やかな利上げのみが正当化されるとハト派の発言をしたことなどのプラス材料もあったが、セントルイス連銀のブラッド総裁が四月の利上げの可能性を示唆したこと、ベルギーのテロ爆発事故から逃避買いでドルが急伸。株価、原油とも急落などのマイナス材料を嫌気しLME銅相場はDOWN。四月六日現在、後半スタート価格から二六九ドルDOWNの四、七七六ドル。銅建値五九万円のスタートとなった。

◆月間のドル/円レート (TTS)

一一三・六五→一一三・三八(円)

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると自動車生産台数は前年比六・九%減の七六万六、八〇四台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比三・二%減の四〇万四、八二二台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比七・八%増の七万二、八三二戸であった。

◆貿易関連指標

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電

銅が三六・四%増の五万八、六〇四t、スクラップが九六・四%増の一萬八、七一五t。

輸入は電気銅が前年比六八・二%減の一八五九t、スクラップが三九・八%増の八、四二二t。

■前月の国内指標
日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比〇・一%減の六万五、七六〇t。

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は、前年比二・六%減の五万八、三〇〇tであった。

■概況

【自動車生産】
二月の四輪車生産台数は七六万六、八〇四台で、前年同月の八二万三、八六四台に比べて五万七、〇六〇台(六・九%)の減少となり、三月月連続で前年同月を下回った。

二月の国内需要は四五万一、三三〇台で、前年同月比六・四%の減少であった。うち乗用車三八万二、一六六台で前年同月比七・五%の減少、トラック六七、八五二台で同〇・一%の減少、バス一、三三二台で同三七・四%の増加。輸出は前年同月比一・〇%の増加。(実績)

【自動車販売】

三月の国内自動車販売台数(軽除く)は四〇万四、八二二台で前年比三・二%減。二カ月連続マイナス。うち乗用車二・七%減、貨物六・三%減、バス五・一%増。

【住宅着工数】

平成二十八年二月の住宅着工戸数は七万二、八三二戸で、前年同月比で七・八%増となった。また、季節調整済年率換算値では九七・四万戸(前月比一一・六%増)となった。

・利用関係別にみると、実数値では、前年同月比で持家、貸家、分譲住宅ともに増となった。また、季節調整済値についても前月比で持家、貸家、分譲住宅ともに増となった。

・平成二十六年四月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響からの持ち直しが見られた後、このところ横ばいの傾向となっていたが、二月は前年同月比で二カ月連続の増加となった。

・引き続き、今後の動向をしつかりと注視していく必要がある。(六面へ続く)

(四面より続く)

【伸銅品生産】

伸銅品生産は前年比〇・一%減の六万五、七六〇tと一二月月連続マイナス。このうち、内需五万五、〇三〇tで一%増と一六九月振りプラス、輸出一万〇、七三〇tで五・六%減と一二月月連続マイナス。品種別では、銅条は二万〇、〇二二tで四・二%減と一〇九月連続マイナス、黄銅棒一万五、八〇三tで五・三%増と、四九月連続プラスであり底入れの兆し?

【電線】

前年比二・六%減の五万八、三〇〇t。うち国内は一・一%減、輸出が三三・一%減。部門別では、通信二二・六%減、電力六・五%増、電気機械六・三%減、自動車六・四%減、建設電販二・二%増、その他内需一・九%減。

【輸出】電気銅輸出が前年比三六・四%増の五万八、六〇四t。銅スクラップは九六・四%増の一萬八、七一一t。

【輸入】電気銅が六八・二減%の一、八五九t。スクラップは三九・八%増の八、四二三t。

【見通し】

・自動車は生産が六・九%減。二月の国内販売台数が前年比三・二%減。生産が三四月月連続マイナス、販売が二月月連続マイナス。生産が連続減少となった。販売の方も二月月連続マイナスに。新年度入り後の動向に注目。

・住宅着工の動向については、平成二十六年四月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響からの持ち直しが見られた後、このところ横ばいの傾向となっていたが、二月は前年同月比で二月月連続の増加となった。引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

・伸銅品は一二月月連続マイナスの前年比〇・一%減。輸出もマイナス幅が五・六%減と大幅減少、今後の回復が望まれる。

需要の多い銅条が一〇九月連続マイナス。黄銅棒が四九月連続プラス。黄銅棒が四九月連続でプラスに転じ、一万五千t台を回復した。

・電線は輸出が三三・一%減。内需も減少の一・一%減。

・銅輸出は生産減少による国内玉の需要減から地金、スクラップ共に大幅増加。

・銅輸入は、生産減少による国内玉の需要減から地金は減少スクラップは内需の発生難から増加した。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は、銅建値が五七万円から一時六一万円まで上昇したことから売られ流通在庫はほとんどないのではないかと。

また引き続きほとんどの分野で生産減の現象が続いており発生難の状況が続いている。

新年度入りからある程度の需要が予測され需給はひつ迫するのではないかと。

【価格・為替予想】

今月は、四月十七日開催のドーハー原油会議、米利上げ問題に左右される。

四月十七日のドーハー原油会議に関しては、クウェートの石油相が二〇一四年秋以降、操業を停止していた油田について、共同操業するサウジアラビアと再開することで合意したとのコメントや、ロシアのノバク、エネルギー相が、大多数の産油国が増産凍結で合意したと述べたなど強弱材料が入りこむ中、最新ではクウェート当局者の発言として「イラン抜きでも増産凍結で合意できる」などと報じ、クウェートでは石油相も「年後半には原油相場の需給のバランスがとれる」などと述べたことから条件付きでの増産凍結になる可能性が高いのではないかと。

米利上げ問題に関しては、セントルイス連銀のブラード総裁が四月の利上げの可能性を示唆したことを初め、複数の米金融当局者が四月利上げの可能性に言及しているが、二月の米貿易赤字は四七〇・六億ドルに拡大、予想は四六二億ドルだったことを考えれば四月の利上げはないのではないかと。

それらを踏まえた四月の銅価格は、米利上げが先送りされ、原油の増産凍結合意が行われた場合、三月高値の一段高五、〇〇〇ドルを予測。いずれかの場合は四、八〇〇ドル。下値はいずれの条件も達成できなかった場合三月もう一段安値の四、六〇〇ドル。

為替は、先月日本が先のG二〇で為替介入に関して、自制を求めるように釘を刺されたことから介入は難しいが、米経済指標の悪化、原油下落による商品価格の下落などから円に逃避資金が集まる可能性が高い。

それらを踏まえ予測は、上値は日本が何らかの為替対策を結果的に一切行わず、原油価格が下落した場合安全資産の円買いから一〇九円台(TTM)を予測。下値は、日本がさらなるマイナス金利策や為替介入などをを行い、原油の増産凍結により価格が安定した場合、一二五円を予測。

銅建値に関しては五五〇〇六二〇円程度と予測している。